

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名:勝家 里佳子

所属:長野県安曇養護学校

記録日:2022年2月24日

キーワード:本児の実態把握、アセスメント、座位での活動、学校生活の日課

【対象児の情報】対象児…以後 T さん

・学年…小学部2学年(重度重複障がい部・学級所属)

・障害名…18トリソミー、心室中隔欠損症、複合性難聴、側湾症、常時酸素吸入

・障害と困難の内容

①体調の変化によって活動を制限したり変更したりする場面が多い。

→安心・安全に学校生活を送ることが出来るよう、Tさんの体調の変化に合わせた支援や環境設定を整理する。

②Tさんがどのようなモノ・ことに興味を示すのか明確になりつつあるが、職員の主観があるため本当にそうであるか整理できておらず職員間での共有が難しい。

→学校生活の色々な場面で、様々な感覚を味わうような活動に取り組むことを通してTさんの実態把握(好きなモノ・興味関心のあるモノなど)の整理をする。

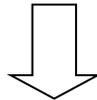
【活動目的】

・当初のねらい

① 体調の変化や実態に合わせた支援を行いながら学校生活を送る

Tさんの体調は気候の変化や発作に大きく影響を受ける様子がある。そのため、体調の変化によって活動を制限したり変更したりする場面が多い。学校生活では、積極的に活動に取り組もうとする姿や様々な表出をする場面が増えてきている。

…その日の体調とバイタルチェックの様子を記録・分析することで、体調の変化に関わる要因や傾向を整理することができるのではないか？

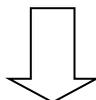


学校生活において、体調の変化に関わる要因や傾向を踏まえた支援(どのような姿勢なのか・どんな環境設定なのか等)を行うことで、Tさんが安心・安全に活動に取り組むことが出来るようになるのではないか？

② 体調を整えながら、色々な場面で教師と一緒に様々な感覚を使う活動に取り組む

日々の学校生活の中で、前担任の引き継ぎや保護者との情報交換をもとに Tさんがどのようなモノ・ことに興味を示すのか明確になりつつある。

…①の取り組みを踏まえて Tさんの体調に合わせた支援・指導を行いながら、Tさんが好む／興味関心のあるモノ・ことを整理して、それらを用いた学習の場を設定する。



興味関心のある活動や動き、好きなモノなどを学習に組み込むことで、Tさんが主体的に取り組んだり気持ちを表現する場面が増えたりするのではないか？

- ・実施期間・・・2021年6月～現在
- ・実施者・・・勝家里佳子（採択者）
- ・実施者と対象児の関係・・・担任1年目（今年度から本校赴任）

【活動内容と対象児の変化】 対象児の事前の状況（Tさんの実態に合わせて）

表出

- ・馴れ親しんだ職員に声をかけられたり好きな活動をしたりすると、笑顔になって「あ～!」「あうあう」などと声を出す。一方で、歯科検診や苦手な感覚刺激を感じた時は眉間にしわを寄せて不快な表情をして不快そうな声を出すことがある。
- ・音や声が聞こえてきた方向へ視線を向けた後、その方向へ顔を向ける。
- ・抱っこされたり抱き上げられたりすると、相手の顔をじ～っと見つめて笑顔になったり「ん～」と声を出したりする。

理解

- ・人や場所の区別をし、馴れ親しんだ職員の顔が見えたり声か聞こえてきたりすると、笑顔になり発声する姿が増えてきた。
- ・「Tさん」「おはよう」と呼名／挨拶すると、5～10秒程すると笑顔になる、発声する、右手を挙げてハイタッチをする。
- ・顔から20cm程度の距離に棒やおもちゃなどを提示すると、数秒後右手を動かして掴んだり握ったりする。音の鳴るおもちゃやマラカスの場合は、そのまま動かして音が鳴ることが分かれると大きく腕を動かして更に激しく振って音を出す。

感覚

聴覚：混合性難聴ではあるが、人の声を聞き取っていたり聞き慣れている音楽が聞こえると笑顔になったりする。朝の会や午前の活動など、場面を決めて一定時間補聴器を両耳装着して学習に取り組む。

視覚：明暗、人物の区別、色彩の区別（黄色やピンクなどの蛍光色を注視する）は出来ている。

触覚：硬いモノ、ザラザラした布（カーペット）、細い部分やTさんが握れる部分があるモノ

→Tさんの周りに置いてあると、自ら手探りで見つけて振り回したり遊んだりすることが多い。

味覚：しょっぱいモノ>甘い物、給食の形態食（押し潰し食の具無し）のスープをほぼ毎日経口摂取で飲む。

身体の動き

- ・近くに置いてあるモノを手探りで掴み、持ち上げたり振ったりする。
- ・仰臥位の状態で、身体を左右に動かして背這いで180°回転する時がある。
- ・自由に側臥位になれるが、左側臥位の姿勢を好む。うつ伏せの状態から左半身を起こして寝返りを打つ。
- ・鈴のような音の鳴るおもちゃ、キラキラしたおもちゃ、色彩のはっきりしたおもちゃなどを握ったり引き寄せたりして遊ぶ、手に持ったおもちゃを上下左右に振ったり音を鳴らしたりすること。

医療的ケア等

・胃瘻注入(200cc)、鼻腔カヌラへの常時酸素(0.75～1.0L)吸入、鼻腔内吸引

・心室中隔欠損症のため、日常生活の中で身体に負担がかかったり発作が起きたりすると、掌や足裏が冷たくなって脂汗をかく。

・活動の具体的内容

① 体調記録表の作成／分析

《目的》Tさんの1日の様子から、その日を通してどのように過ごしたのかわかりやすく視覚化するために、対象児の体調に影響を与えそうな要因をピックアップし、学校生活の様子を記録する表を作成した(保護者や学校看護師、前担任の情報を参照)。(図I)

《観察方法》その日の天候や登校前の発作、バイタルチェック、水分量、排尿の回数などを記録項目とし、1ヶ月毎1枚のExcelファイルでまとめる。

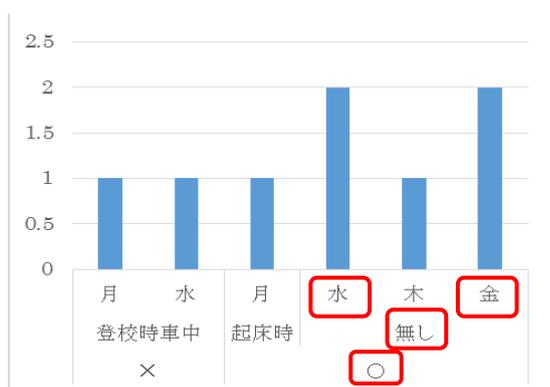
《前期の記録から分かったこと》

日付	登校時				食事				学校での体調						
	曜日	前日の出来事	天気	朝の発作	Spo2	脈拍	水分量	注入力	経口摂取	経口摂取	排尿	排便	発作	午前睡眠	午後睡眠
6月16日	水	受診、訪リハ	曇りのち雨	登校時車中	90(0.75)	130台	通常	通常	無し	×	2回	無し	無し	10:00~	14:10まで
6月17日	木	無し	晴れ	無し	92(0.75)	120台	通常	通常	4口	○	4回	1回	無し	無し	12:20~12:25
6月18日	金	無し	曇り	無し	93(1.0)	110台	通常	通常	8口	○	2回	無し	無し	無し	無し
6月21日	月	休日	曇りのち晴れ	起床時	94(0.75)	110台	通常	通常	6口	○	4回	無し	無し	無し	14:05~14:30
6月23日	水	受診、訪看	曇りのち雨	無し	92(0.75)	100台	通常	通常	2口	○	2回	無し	無し	11:35~	~14:25
6月25日	金	家事都合	晴れ	無し	94(0.75)	100台	5ml	通常	3口	○	2回	無し	無し	10:40~11:20	無し
6月28日	月	休日	晴れのち曇り	登校時車中	90(0.75)	120台	5ml	通常	無し	×	1回	1回	朝の続き	11:10~	~14:00
6月30日	水	受診、訪リハ	晴れ	無し	93(0.75)	110台	通常	通常	3口	○	2回	無し	無し	~12:30	無し

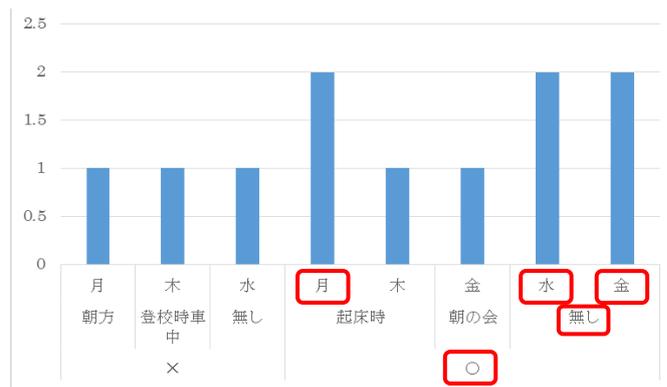
図I 対象児の体調記録表(一部抜粋)

6~8月にかけて対象児の日々の様子を記録すると、天候の変化よりも朝(家庭や登校車中で)の発作や学校での発作の有無が、給食時の経口摂取や日中の休息(睡眠時間)に影響を与えているのではないかと考えた。そこで、朝の発作に焦点を当てつつ、対象児が経口摂取することが出来た日・回数を可視化した。

※)学校看護師と相談し、体調が安定している状態のみ経口摂取を実施している。 ※)○と×:経口摂取の有無



図II 6月記録表



図III 7月記録表

6.7月の記録表を基にして集計したグラフから、経口摂取することが出来た(図の○)のは「発作無し」と「水、金曜日」であることが分かった。Tさんは、毎週火曜日に訪問入浴・リハビリを行うため欠席している。その影響で、火曜日以降の水曜日や金曜日は体調が安定して経口摂取する事が出来ているのではないかと考えた。

評価基準	評価
体調が良い	4
やや体調が良い	3
やや体調が悪い	2
体調が悪い	1

《後期の記録から分かったこと》

前期の記録からの改善点

- 上記の前期の記録で分かったことを踏まえて、「発作の有無」と「酸素流量の変化」、「経口摂取できたか」という点に絞って記録する。
- 以上の3点を評価基準にして、その日の体調を4段階で評価する。

(4段階評価 図IV)

体調が良い(4)	: 1日を通してバイタルが安定している。発作はあるが経口摂取に取り組めた。
やや体調が良い(3)	: 酸素の流量を増やしたり調節したりして過ごした。 //
やや体調が悪い(2)	: // 発作があり、経口摂取無し。
体調が悪い(1)	: バイタルが不安定。酸素の流量を2L以上に上げる、発作が強い、 //

10月～1月の記録の結果をまとめる(以下図V)

経口摂取…有○、無×

10月1日 金 4 ○	11月1日 月 3 ○	12月1日 水 4 ○	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>体調の評価 1or2 → 月曜日 6日 木曜日 1日 金曜日 3日</p> <p>※体調の評価 1or2 = 経口摂取無し</p> </div>
10月4日 月 2 ×	11月4日 木 4 ○	12月2日 木 4 ○	
10月6日 水 4 ○	11月5日 金 4 ○	12月3日 金 3 ○	
10月7日 木 3 ○	11月8日 月 2 ×	12月6日 月 2 ×	
10月8日 金 2 ×	11月10日 水 4 ○	12月8日 水 4 ○	
10月13日 水 4 ○	11月11日 木 4 ○	12月9日 木 4 ○	
10月14日 木 3 ○	11月12日 金 3 ○	12月10日 金 3 ○	
10月15日 金 3 ○	11月15日 月 1 ×	12月13日 月 3 ○	
10月18日 月 2 ×	11月17日 水 4 ○	12月15日 水 4 ○	
10月20日 水 4 ○	11月18日 木 4 ○	12月16日 木 4 ○	
10月21日 木 4 ○	11月19日 金 3 ○	12月17日 金 4 ○	
10月22日 金 1 ×	11月22日 月 2 ×	12月20日 月 3 ○	
10月25日 月 2 ×	11月24日 水 4 ○	12月22日 水 4 ○	
10月26日 火 3 ○	11月25日 木 3 ○	12月23日 木 2 ×	1月7日 水 3 ○
10月27日 水 4 ○	11月26日 金 4 ○	12月24日 金 4 ○	1月12日 木 3 ○
	11月29日 月 3 ○		1月13日 金 4 ○
			1月14日 月 3 ○
			1月17日 水 4 ○
			1月19日 木 4 ○
			1月20日 金 3 ○
			1月24日 水 3 ○
			1月26日 木 4 ○
			1月27日 金 2 ×

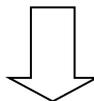
図V 10月～1月の記録(一部抜粋)

・対象児の事後の変化 (◎…活用できそうな点、●…改善が必要な点)

◎図Vより、その日の体調の評価の中で、1or2(=経口摂取無し)が多かったのは月曜日(計6日)ということが分かり、定期休み(火曜日)の翌日である水曜日の評価はほとんど3or4であり、比較的体調が安定していて経口摂取を行っているということが分かった。

●後期の11月中旬からTさんの発作の形が変わり、「小さな発作が毎日昼寝後に起こる」ようになったため、前期で記録していた「天気」「朝の発作の有無」などの項目を排除し、必要な項目と体調の4段階評価の記録に変更した。

●前期の記録様式は、多くの項目を設定していたため体調の記録を毎日行うのに手間がかかってしまった。



水曜日に体調が安定している日が多いことから、前日火曜日定期休みが影響しているのではないかと考えられる。

② 興味・関心のあることを整理／分析

《目的》前担任や保護者とTさんの興味・関心のあることの情報共有し、Tさんの様子を観察すると徐々に興味・関心のあることが明確になってきた。実際に興味・関心のあることを組み込んだアセスメントを行い、今後の学校生活においてTさんの得意な動きや好きなことを活かしながら活動に取り組むことができるようにする。

《観察方法》Tさんが視覚や聴覚などの感覚を有効的に発揮でき、尚且つ短時間安心して集中しながら活動に取り組める姿勢や環境をつくるためのアセスメントを行い、結果を基に学習場面を設定する。

⇒前期…興味・関心のあることを用いたアセスメント、後期…アセスメントを基にした活動の取り組み

《前期…アセスメント》

右図参照

- ・水曜or木曜日の午後(Tさんの個別学習の時間)基本15分程度。
- ・座位時は右図のような環境設定をする
- ・仰臥位の学習の時も極力刺激を少なくした環境で行う。
- ・「理解と表出のアセスメント」を行い、その様子を動画で記録する。



「理解と表出のアセスメント」の手続き／結果(図VI)

- アセスメントの様子を iPad で撮影、後に動画を見て観察・分析する。
- 提示無し:Tさんの左後ろに隠す、提示あり:Tさんから約20cm離して提示
- 「提示無し／あり」共に30秒間行う⇒提示無し(OFF)で開始・終了する、提示無しを3回／提示あり(ON)を2回

OFF①→ON①→OFF②→ON②→OFF③

	仰臥位	SPO2／脈	座位	SPO2／脈
おもちゃ A	<ul style="list-style-type: none"> ・ON①の10秒過ぎて、右手で掴み上下に振る。 ・OFF②の中断のため、おもちゃを取り上げると放心状態で天井を見る。 ・ON②、左右に顔を振って身体を動かして対象物を見ていない様子だった。 	開始前 92／116 終了時 93／109	<ul style="list-style-type: none"> ・顔を左右に振っていたが、OFF②5秒後、身体の動きを止める。 ・ON②開始直後、右手を伸ばして掴み、上下に振る。<u>中断して取り上げた方へ顔をゆっくり向ける。</u> ・OFF③12秒後に「あう～」と声を出す。 	開始前 94／115 終了時 91／118
おもちゃ B	<ul style="list-style-type: none"> ・ON①左手で握るが、途中で頭上に落として見失ってしまい、身体を動かし始める。 ・ON②以降提示しても、口の中に手を入れて自己刺激をする。 	開始前 90／104 終了時 94／121	<ul style="list-style-type: none"> ・ON①32秒後右手で掴む。その後中断すると、口に手を入れて取り上げた方へ視線を向ける。 ・ON②直後、手を伸ばす。 	開始前 92／113 終了時 90／127
曲 C	<ul style="list-style-type: none"> ・ON②で、曲の鳴る方へ視線を向けるが、<u>反対方向へ側臥位になる。</u> ・提示と中断にかかわらず、終始声を出して口の中に手を入れて眉間にしわを寄せていた。 	開始前 93／102 終了時 92／107	<ul style="list-style-type: none"> ・OFF②の26秒後「う～」と声を出し、眉間にしわを寄せる。 ・ON②直後、「うい～!」という甲高い声を出し、笑顔になる。 ・OFF③7秒後右手を口に入れて左手で机を叩く。 	開始前 91／116 終了時 91／120
曲 D	<ul style="list-style-type: none"> ・ON①の23秒後、<u>身体を左右に動かす。</u> ・OFF②で中断をしても、ずっと動き続け、<u>終始身体を左右に動かしていた。</u> 	開始前 91／113 終了時 92／105	<ul style="list-style-type: none"> ・OFF①直後からずっと顔を左右に振っていたが、<u>ON①の8秒後動きを止める。</u> ・ON②の21秒後、<u>曲の鳴る方へ視線を向けてジッと見つめる。</u> ・OFF③直後、笑顔になる。 	開始前 92／118 終了時 90／124

図VI 「理解と表出のアセスメント」のまとめ(一部抜粋)



図VII おもちゃ A 仰臥位



図VIII おもちゃ B 座位



図IX 曲 C 座位

学習場面で重要な姿だと考えられる「対象物に対する反応・表出」「姿勢の安定」「バイタルの安定」の三つの項目を基に、仰臥位の姿勢と座位の姿勢で比較した結果、「対象物に対する反応・表出」「姿勢の安定」に関して、座位だと姿勢が安定しているためかバギーで身体を固定されているためか、対象物を捉えたり手を伸ばして掴もうとしたりする姿が多く見られた。しかし、開始前後「バイタルの安定」に関しては、図IXの□部分を見ると、座位姿勢のためか、ほとんど SPO2 は低下、脈は上昇していることが分かる。仰臥位よりも座位の方が様々な刺激を感じ、何かしらの

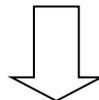
対象物に対する反応・表出	姿勢の安定	バイタルの安定
仰臥位<座位	仰臥位<座位	仰臥位>座位

表出をしているが、対象児にとって座位の姿勢での活動は、身体に負担がかかっているということが分かった(図X)。

図X 結果のまとめ

【仮説】座位で学習に取り組むと、様々な刺激を受け取りやすくなるのではないかと、身体への負担を考慮し、活動時間を決めて一定時間取り組むような学習場面を設定するのは?

それぞれの姿勢での反応・表出の違いやバイタルの変化が見られたことで、Tさんのその日の体調に合わせて「どの場面で」「どの程度取り組むのか」という活動内容を決める判断基準になりそう…



体調が安定している日は座位で、不安定な日は仰臥位の姿勢で学習に取り組む。

…日常生活の様々な場面で、一定時間座位で学習する場を多く設ける。

《後期…具体的な取り組み》

Tさんの興味・関心のあるものや好きなことに着目して、日常での朝の時間や生活単元学習、学級の時間、お昼休みなど様々な時間で活動に取り組む様子をまとめる。

- ねらいを定めて物を触る、掴む、引っ張る

①おもちゃボード(図VIIのおもちゃA)で遊ぶ



〈座位〉
ボードを手探りで触った後、視線を落として触ったり引っ張ったりする。
→目と手の協応学習

②制作学習



〈座位〉
持ちやすい教具を提示すると、右手で掴み上下左右に動かして模様をつける。
→目と手の協応学習

③上から吊るした教材を掴む・引っ張る



〈座位〉
上から吊るされた教材にねらいを定めて手を伸ばして握ったり引っ張ったりする。座位で姿勢が安定しているためか、上から吊るされている教材を注視したり追視したりする姿が多くみられた。

- 馴れ親しんだ教師と挨拶をする

④朝の会での名前呼び 〈座位〉



朝の会では、15分～20分程座位保持椅子に座って活動している。名前呼びの時は、CTの教師の動きを追視したり近づいてきた教師を注視したりする。図のように、Tさんから20cm程離れた距離に教師が手を出すと右手を動かしてハイタッチする姿が見られる。

⑤登校時の挨拶 〈座位〉



登校時、車からバギーへ移乗する前に挨拶する。(登校した日はできるだけ毎日実施)

- ① 何も声をかけずにTさんの正面へ顔を出す。
表情の変化や身体の動きがあるまで声をかけずに待つ。
←こちらの存在に気付くと、目線や身体の動きや表情の変化が見られる。



- ② 表情の変化や身体の動きがあったら声をかける。
「Tさんおはよう」「学校に着いたよ」と挨拶をしたり声かけをしたりする。
←こちらの存在に気付き、目線と顔をこちらへ向ける。



- ③ 発声や手の動きがあったらバギーへ降りる準備をする。
「今日も挨拶できたね」「バギーへ移動するよ、教室へ行こうね」と声をかける。
←「あう～」と発声する、教師へ手を伸ばす、ハイタッチする姿が見られる。

⑥経口摂取で色々な味を楽しむ



ST指導より、金属スプーンを使用することで、舌の動きを促す。

最初の1・2口は金属のスプーンを教師と一緒に握り、口へ運ぶ動作を行う。

・対象児の事後の変化 (◎・・・活用できそうな点、●・・・改善が必要な点)

◎アセスメントより、「座位で学習を行った方が様々な刺激を受け取りやすいのではないか」という仮説を立てて学習場面を設定することができた。

◎座位での学習場面を多く設定したことによって、新年度当初に比べてTさんの学校生活の日課がほぼ毎日安定して行えるようになった。また、座位での活動がルーティーン化したことによって1日を通してTさんが活動に取り組む時間が増え、学習の保障をすることにもつながった。

Tさんの日課の変化(①~⑥の活動を踏まえて)

	9:40頃 登校	10:10 朝の会	10:40 AM/生単	11:20 昼寝/注入	12:30	13:00	13:30 PM/個別	~下校
新年度当初		④		昼寝 →	→ ⑥+注入	→		

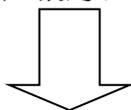
:

現在	⑤	④	③	昼寝 →	→ ⑥+注入	→	①、②	
----	---	---	---	------	--------	---	-----	--

●後期の実践では、「座位での活動が有効」という仮説のもと取り組んでいたが、座位は心拍が加速することが多いことから、身体に負担がかかったり受入を示すような心拍の減速反応が捉えにくかったりする可能性があったのではないかと。そのため、一旦体調との関連は切り離して、「**仰臥位と座位では、感じ方が異なる可能性がある**」ということをも前提として、**両方の姿勢で学習が進むような場面設定を工夫していく**とどんな表出が見られるのか、来年度以降の学習で取り組んでいきたい。

●座位での活動に取り組む際は、**学校看護との連携や活動前の丁寧な健康観察を必ず行う**必要がある。

●後期から現在まで、Tさんの体調や発作が安定していることや担任含め周りの職員がTさんの体調の変化を瞬時に気付けるようになったことで日課が安定しているのではないかと。そうすると、**来年度の職員体制になった時のTさんの引継ぎ(日課を含めた学校生活における学習場面の設定など)**が重要になってくる。



一定時間座位での活動を設定し**安定した日課**を過ごしつつ、同じ活動を仰臥位で取り組めるような場面を設定する。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

《Tさんの日々の姿から学ぶ》

体調の記録をすることで、「今日のTさんはこんな様子だったな」「この時、こんな様子が見られたから明日はどうだろう」と**1日の振り返り**を行うことができた。

その振り返りを基に、翌日の活動内容を決めたり検討したりして**1日1日の学習場면을丁寧に設定**することができた。



・エビデンス

《個別学習の重要性~好きな活動を通して~》

個別学習中、実践②「座位での活動」で右図のように教師と一緒にバランスボールで揺れ遊びをする活動をした際、カウントダウンをすると揺れを期待するような表情が見られた。その後、同じように静止した状態からカウントダウンをして揺れる、という取り組みを5回行った。すると、回数を重ねる毎に笑顔を見せたり発声したりする姿が見られた。

もう1回いくよ~
3. 2. 1...!!



回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
笑顔や発声	揺れてから約5秒後 「あう～」と発声	揺れてから約5秒後揺 れに合わせて「あう」	揺れた直後笑顔になる	揺れた直後「うい～」と 甲高い発声	カウントダウンの「1」で 笑顔になる

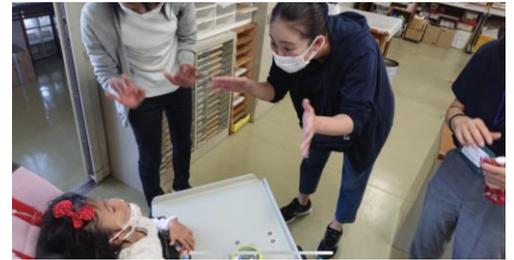
個別学習なので、余裕をもって動画で記録し丁寧に観察できた。実践の結果より、「体調が安定している水曜日」に「座位で好きな活動をする」時間を設定することで、Tさんの学習の質を高めるのではないかと考えた。

《学習を通して見えたTさんの表出》

指標となる姿		教師の捉え
表情の変化	無表情	環境の変化に気付く・感じ取っている
	眉間にしわを寄せる	不快な気持ち・拒否・回避
	笑顔	快の気持ち・期待感
発声	「あう」「う～」	挨拶や言葉かけの返答
	「うい～」	快の気持ち
身体の動き	手を伸ばす	モノや人に触りたい・興味
	顔を左右に振る	集中力が途切れる・眠たい

実践②を通して、Tさんの様々な表出が見られた。アセスメントや学習の中でよく見られた姿をピックアップして教師の捉えの指標としてまとめると、「笑顔」は快の気持ちや期待感を表していると考えられた時に「うい～」と発声する、またモノや人の動き・音に興味を示した時に手を伸ばして触れようとしたり「あう」「う～」と発声したりする、などのことから、環境の変化や刺激に対してTさんなりの決まった表出方法があるのではないかと考えた。

そして、この指標となる姿と実践を通して感じた教師の捉えをもとに、Tさんが様々な表出をする場面を察知して気持ちを共有したりフィードバックしたりする声掛けを丁寧に行っていくことで、Tさんの刺激に対する決まった表出をより強化することができるのではないかと考えた。



・その他エピソード

一学期を経て新しい学級の職員に馴れてきた様子の子のTさん。後期、「座位の学習」の中で、感染症レベルが低い時期は教室を出て校内散歩をしながら色々な職員へ会いに行き、自己紹介を吹き込んだVOCAで挨拶をしたり職員室の教師と手遊びをしたりした。学級の職員とのかかわりや教室での活動とは違ったこのような経験を積むことで、相手意識をもって気持ちを表現したりTさんなりの様々な表出が見られたりするのではないかと考えた。

・課題と今後の支援について

《発達段階や成長に合った支援・指導方法の共有》

- 毎日の記録で、4段階評価で安定している日が多いのは水曜日→水曜日(定期休みの翌日)に個別学習の時間を設けるようにする。(引継ぎ)
- アセスメントより、色々な刺激を受け取り処理しやすい座位→座位の学習をできるだけ取り入れる→毎日の活動をルーティーン化し、安定した生活を送れるようにしつつ、同じ活動を仰臥位でも取り組めるような学習場面を設定する。
- 今年度はほぼ毎日経口摂取に取り組み、摂食の経験を積んだからか、おもちゃや自身の指を口の中に入れて遊ぶ姿が見られるようになった。→円城寺式乳幼児発達検査「運動」『手の運動』の「手を口に持って行ってしゃぶる(2カ月)」が見られつつあるので、この成長の姿を大切にしつつ次の発達段階「顔にふれたものを取ろうとして手を動かす(3ヶ月)」が見られるような学習にも取り組むようにする。

